



今年で4回目の就Bそれいゆ主催のワークショップ。
今回のテーマ「ワンダーランド」。

ひまわり通信

Vol.8 2022.3.

“どんなに重い障害があっても地域で共に生きる社会”を目指して

発行：特定非営利活動法人 ひまわり事業団
静岡障害者自立生活センター

〒422-8006 静岡市駿河区曲金 5-4-58
TEL : 054-288-6068 FAX : 054-287-4922
E-mail : himawari@scil.jp HP : <https://www.scil.jp>

第4回 それいゆアートイベント

第3回までの「ランドシリーズ」を経て、4回目となる今回は「ワンダーランド」になりました。

2018年に始まった、第1回目のアートイベントを、アーティストさんや学生さんたちとワイワイ楽しく行う中で、それいゆのメンバーに垣間見れた描くことへの熱量。

それがイベントの時だけで終わりを見せず、日々の生活にも自然と入り込んで、気づかぬうちに、それいゆのメンバーに変化をもたらしました。

「つくる

in wonderland

「物語

in Wonderland」



↑ ドラムが似合うね、村上君

11月に静大生と行なったコラボ展示のオマージュ？をホシノさんと一緒に皆で作り上げました↑

ミエナイチカラ

「今日と昨日でこんなにも違う！」とか、そういう類のはっきりしたものではなく、時々振り返ってみると、「あれ？なんか変わったよね。」といった感じのものです。
成長というよりは、描くことへのエネルギー量のように思います。

誰かに促されて描くのではなく、自らの意思で描き始め、しかも何かお手本があるわけでもな

く、それぞれの中に湧き出たものを放送出するかのように描きだす。

束縛のない表現と表現することの楽しさが、作品を通して見た人へ伝わり、またその見た人の思いが作者へと帰ってくる・・・。

そんな、はっきりとは見えないレスポンスが、原動力の一つとなっているように思います。

文：鈴木梨可

↓ 前日準備の様子（常葉大学 山屋ゼミ 学生のみなさんと）

村マンと大地君は、ドラムセッション？↓



「つくる in wonderland」

誰も想像しがたいものができあがっていく

「つくる」ことを様々な素材と手法で楽しめます。
会場内にある素材は、何をどう組み合わせてもOK！
これをつくる。という決まりはありません。

「コレとコレで、こうしたいんだけど・・・」と
そばにいるアーティストに声をかけると
その人の「つくりたいもの」を第一優先にしたア

ドバイスをしてくれて、つくること・出来上がっていくことに一人で没頭しつつも、周りとも関係しながら楽しむことができます。

今回は、1月30日に展示のワークショップを行い、
自分が作ったものを展示する空間もつくります。
人が足を運ぶ場をつくることへの第一歩です。

※イベント当日は、別の撮影も行われた為、一部マスクを外している写真があります。ご了承ください。





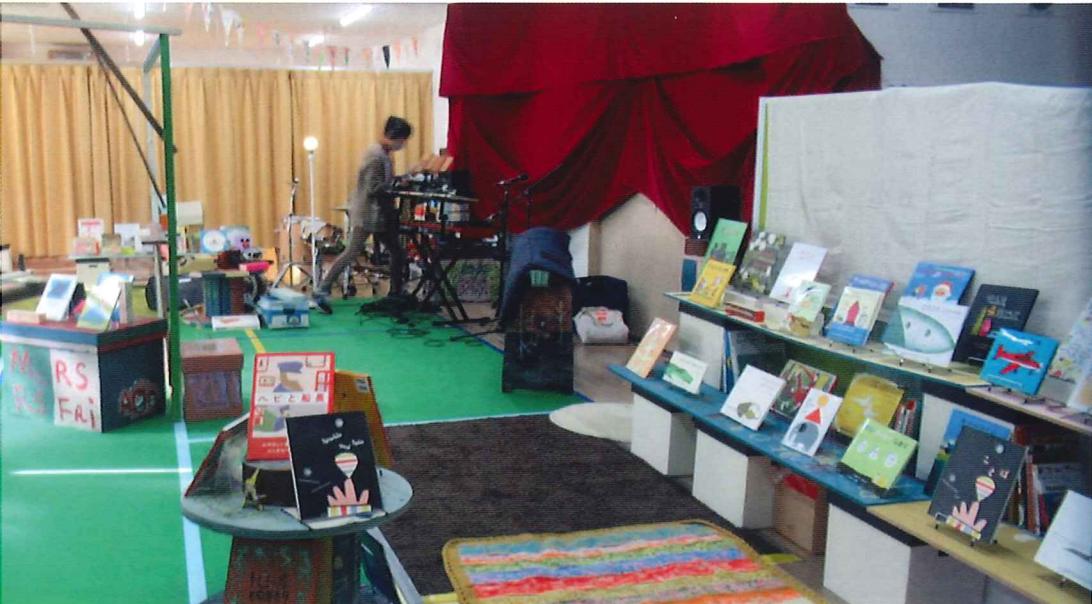
一日。一年目のそれいゆワンダーランド。

会場内に点在する絵本は、自由に手に取って読むことができます。誰かに読んでもらっても、ひとりでその世界に浸っても・・・。

テーブルには、さまざまな大きさの紙と、ペンが置いてあって、思いついた言葉を自由に書き残すことができるスペースになっています。

誰かの書き残したカードに書き足す人もいるし、ふと浮かんだ言葉を残していく人も。

「今日おふろはいらなくともいい?」という誰かのカードに、「いいよ」と返事を書く誰か。知らない誰かと誰かが、一つのテーブル上の言葉でつながっていく面白さ。くすっと笑える面白さがそこにありました。



Special thanks

- ・ホシノ マサハル
- ・ウエダ トモミ
- ・ふしみ みさを
- ・吉田 朝麻
- ・柏原 崇之
- ・すずし
- ・コナガヤ サキ
- ・Ami
- ・久住 卓也
- ・常葉大学 保育学部 山屋ゼミ
- ・静岡大学 教育学部 美術教育研究 高橋ゼミ



就B それいゆのアートイベントで卒業生とも再会（写真中央：山屋さん）

常葉大学 保育学部

保育学科 准教授

やまや はるえ
山屋 春恵 さん

今回は学生時代から関わりのある、山屋さんにお話を伺いました。

今回は、常葉大学保育学部保育学科の准教授、山屋春恵さんにお話をうかがいました。

山屋さんは、大学生時代に、静岡障害者自立生活センターを中心に、当団体にボランティアとして関わっていました。その後、社会福祉や児童福祉を中心とした学問を究める道に進まれ、現在は常葉大学の教員という立場で、それいゆを中心に再び当法人に関わって下さっています。

趣味は、最近始めた山登りとハープ演奏。

インタビュアー：奥村譲

■こんにちは。今日はよろしくお願ひいたします。

山屋さんは、私の出身大学の後輩に当たるんですね。

はい、そうです。

■大学では何を学ばれたんですか？

教育学部で教育哲学を学びました。卒論のテーマは、イギリスのサマーヒルに代表される自由スクールでした。

■学生時代に当団体に関わることになったきっかけは何だったんですか？そして当時はどのような形で関わっていたんですか？

大学2年の夏休みにサマーショートボランティアという企画に応募して、たまたま派遣されたのがどろんこ作業所（※1）でした。そこから、静岡障害者自立生活センター、ホットハート静岡（※2）、ひまわり寮（※3）や、それらに関わるさまざまな人や団体へと

人間関係がどんどん広がっていきました。

ひまわり寮へ遊びに行って住人と食事を共にしたり、障害者の権利を訴える全国集会について行ったり、仲間とご飯を食べにいったり手話サークルに参加したりもしました。また、駅にエレベーターをつけるようにJRへ陳情に行くのに同行したこともありました。

特に「ボランティアをしている」という意識ではなく、さまざまな人たちとごく自然に交友関係を楽しんでいました。

※1：当時、当団体が運営していた小規模作業所

※2：同上、相互扶助型の助け合いシステム

※3：同上、共同生活寮

■ちょうど、私がイギリスでのボランティア遊学を終えて、自立生活センターに就職した頃でしたよね。ところで、大学卒業後は、どのような進路を歩まれたんですか？

外の世界を見たくてアメリカに10ヶ月ほ

ど留学しました。その後、静岡に戻り3年間小学校で教員をしました。でも、子どもへの教育的な視点だけでなく福祉的な視点の必要性を感じ、社会福祉系の大学院に進学して子ども家庭福祉学を中心とした子どもの権利擁護について研究しました。

その後は、県のDV相談員をしたり、短大の教員をしたり、10年間ほど文部科学省で教科書調査官として教科書検定の仕事に携わったり…と色々な経験をさせていただき、2018年度から現職にいたっています。

■若い頃、当団体に関わったことでその後の人生に何か影響を与えたましたか？

学生の時に、静岡障害者自立生活センターの人たちの活動や生きざまに触れたことは後に学問として社会福祉学を学ぶ中で、「あの時の活動がソーシャルアクションだったんだ」とか、「あれが権利擁護活動というものだったんだ」とか実感しました。また、福祉の教科書にも「自立生活運動」とか「自立生活センター」とかが普通に出てきて、「自分が昔関わっていた人たちが大切にしていたものがこれだったんだ…」と感慨深いものがありました。

■今、大学では何を教えているんですか？

保育学部の学生、つまり将来、保育者になる学生に、「社会福祉」や「子ども家庭福祉」、「社会的養護」といった科目を教えています。保育学部で学ぶ学生は約9割が女性、残り1割が男性で、みんな、子どもが好きな若者ばかりです。卒業後の進路は幼稚園や保育所、こども園への就職が多いのですが、児童養護施設や乳児院、障害児施設などへ進む学生も増えてきています。

■大学の先生というのは、学生に教えるだけでなく、自分でも研究をしなければならないんですよね。

そうなんです。「子どもの権利擁護」「子どものアドボカシー」、「教育福祉」などが私の研究のテーマです。

■今は、当法人とはどのような形で関わっているんですか？

私の担当するゼミの学生を中心に、それいゆ（就労継続支援B型）に関わっています。主に、毎年開催されるアートイベントに準備段階から当日の本番までお手伝いさせていただいている。コロナ禍前は、学生がそれいゆのメンバーと一緒に東京ディズニーランドに行かせていただくなど、普段から交流を楽しんでいました。

二日間にわたるアートイベントでは、それいゆのメンバーが、自由でのびのびと創作する姿を目の当たりにできます。学生たちは、メンバーのそんな姿を見てごく自然にその場に溶け込んで、「何でも自由に表現していいんだ」「正解は無いんだな」と共に自由な表現を楽しめます。さまざまな人たちの感性が交じり合って、共感して、共感されて、また新しい作品が生まれる…。

学生たちは、今までとはまったく別の価値観に触れたような新鮮な感動を味わっています。これは、大学生活やバイト先などでは味わえない、とても貴重な体験です。

■こちらこそ、山屋ゼミの学生の皆さんには毎回お手伝いいただき、心より感謝しています。最後になりますが、山屋さんのご自身の夢をお聞かせ下さい。

そうですね…地元である静岡の大学で教員ができるのはとても幸運なことなので、将来は地域への貢献というか、静岡を少しでも良くしていく活動をしたいですね。

令和3年度

ピアカウンセリング集中講座（オンライン）

日程 令和3年9月11日（土）、25日（土）、10月16日（土）、30日（土）
11月13日（土）、27日（土） 全6回

時間 14:00～18:00／一回（内休憩30分）

リーダー 中尾悦子さん（CILリングリング）写真：上中
岡本幸恵さん（CILスリーピース）写真：上右
大川速巳（静岡障害者自立生活センター）写真：下左

受講生 3名（身体障害（脳性麻痺））※今回、オンラインでの集中講座のためピアカン経験のある方が対象。

プログラム

- ① リレーション『ピアカンってなに？』
- ② 人間の本質と感情の解放①、②
- ③ 障害をもっていること
- ④ セッション アプリシェーション
- ⑤ サポートを得ることあげること、交流会
- ⑥ 自立生活プログラムとロールプレイ

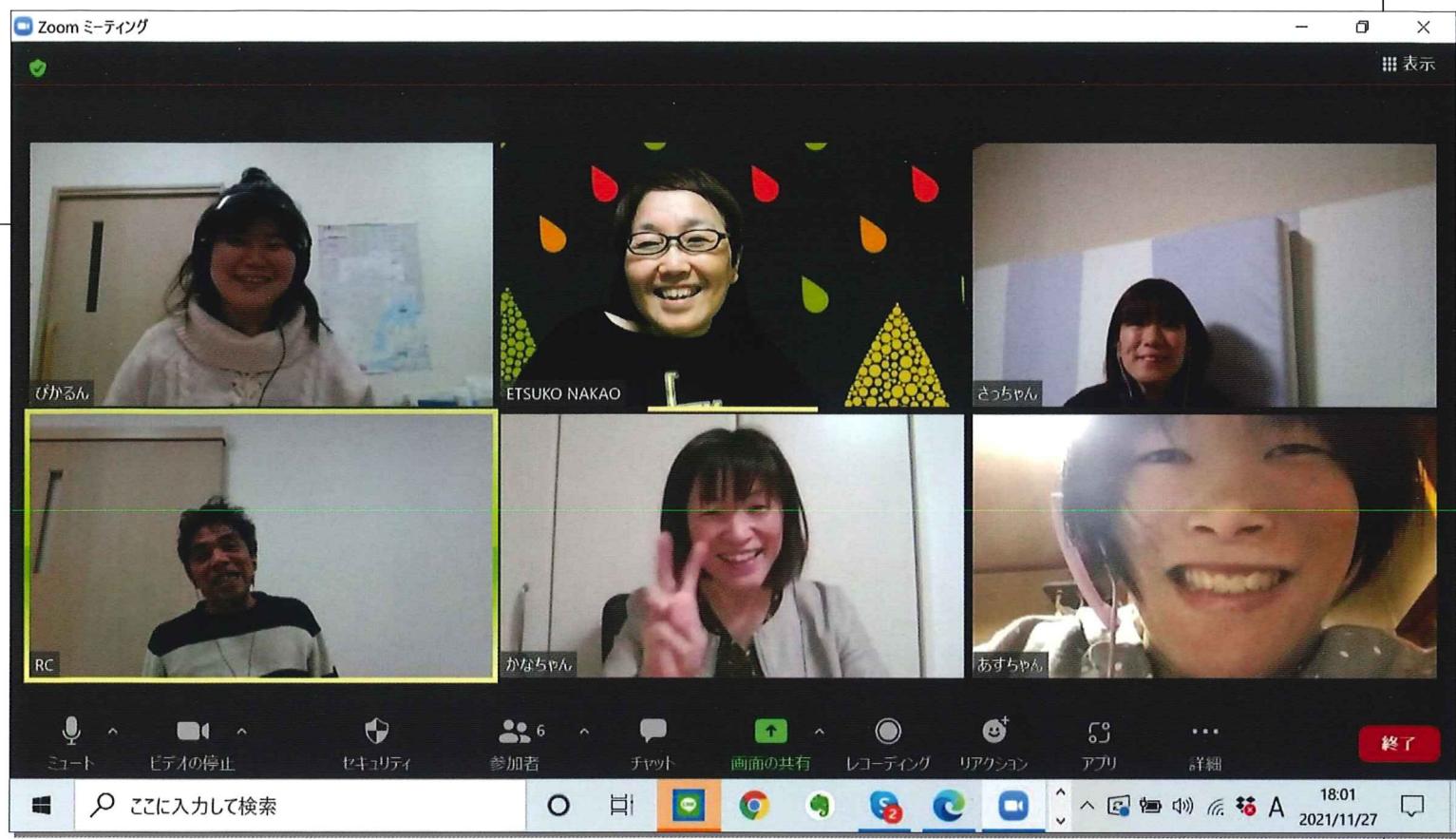
この講座の企画から1年半、ようやく開催となりました。とはいっても、まだまだコロナ禍の影響が大きく、リーダーとも話し合い、オンライン（ZOOM）での開催としました。ZOOMを使ってのピアカン開催は初めての取り組みであったため、リーダー内で綿密な事前会議を重ねました。また、一回ごとの間隔を2週間取り、その間にリーダー同士、参加者同士のセッションの機会を作り、振り返りの時間を持ちました。そうしていく中でセッションのやり方や、ペア決めなど、リーダーと受講生がペアになる機会を多くしセッションの時、気を配り進めることができました。

参加者はピアカン経験が浅く、オンライン（ZOOM）ということもあり、かなり緊張していた様子でしたが、リーダーの中尾さん、岡本さんの柔らかい雰囲気づくりのおかげで次第に緊張もほぐれていき、回を重ねるごとに表情も明るく、

自発的な発言も増え、参加者が生き生きとしていく様子が見て取れました。

まずは「ピアカンってなに？」と、いうそもそもの話から始まりました。ピアカンのやり方、お互い（カウンセラーとクライエント（参加者））が対等な立場で話を聴きあうこと、傾聴に徹すること、否定・批判をしない等や、ピアカンを深めていくことで生まれる効果（重度障害者が自身の存在意義を知り、自立生活を通して自己選択・自己決定・自己責任を実践することで、周りの人たちの意識を変え、それが社会変革に繋がっていく）を、伝えられ、参加者のそれぞれに響いていた様子でした。

しかし、それはピアカウンセリングの大きな目的・目標であって、大事なものは、自分自身の心の傷を探すことです。自分の障害を意識したときや受けてきた抑圧、それによって形成されてきた



自分のパターンに気付き、その時に感じた思いや受けた傷から解放されることが重要となります。

ピアカウンセリングの目的の一つである『自分の障害、自分を好きになる』こと、このことが出発点になるんだと改めて気づかされる講座になったと思います。『自分を受け入れて、自分を好きになる』これは、自身がまず自分自身をまるごと肯定することです。講座の中やセッションの中で話される『あなたはあなたのままでいい』を実践していくためには、まず自分が自身のことをまるごと肯定し好きにならなければ、クライエントには伝わらないということです。

そして、ピアカウンセリングを経て自分自身を好きになり、思ったことを思ったように行動していく障害当事者が増え、そんな障害当事者が社会と繋がり発信・活動することで社会が変わっていくきっかけになっていくような、好循環につながっていくと良いと思います。

今回、オンライン開催の特性を活かし、個別セ

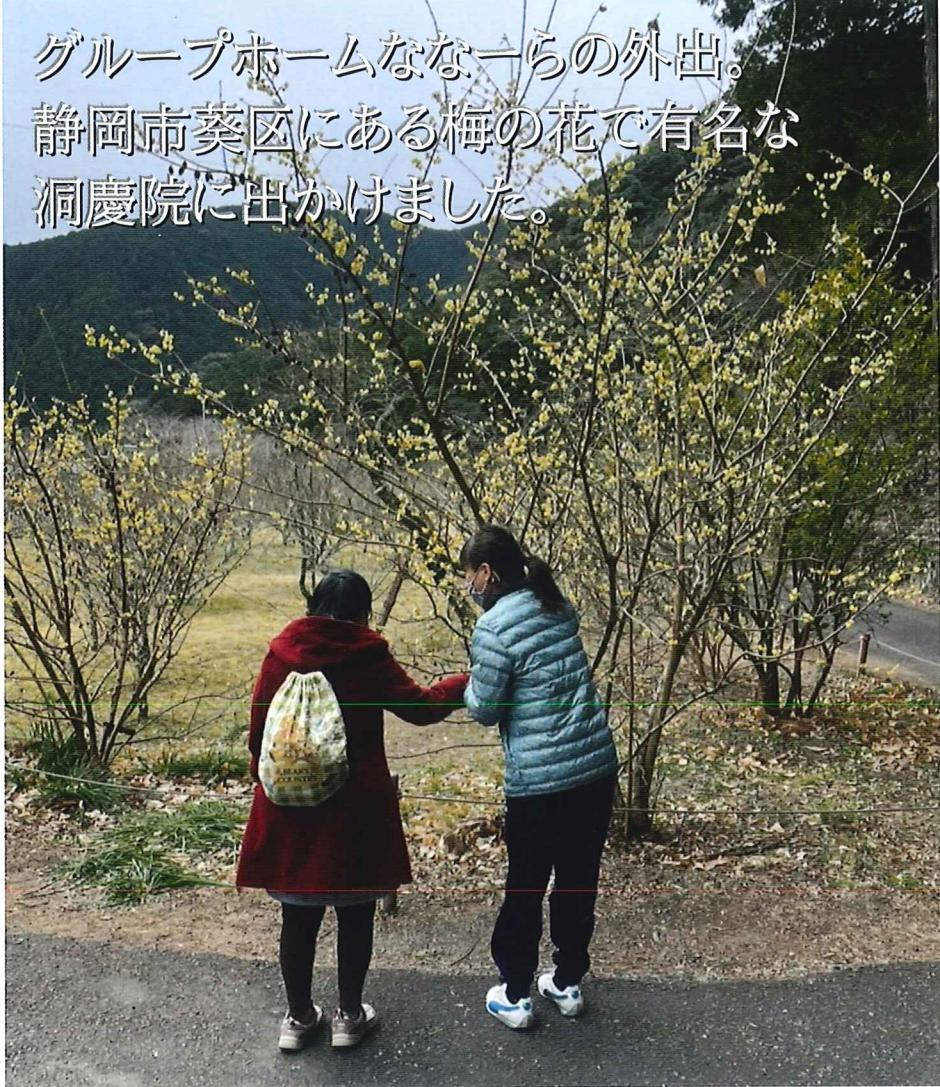
ッションの時間・回数を多く取り入れ、参加者の「感情の解放」に重点をおいたことも良かったと思います。また、参加者の一人からは自立生活実現に向けて、これまでなかなか出せなかった自分の思いを出し伝えていく様子など、回を追うごとにエンパワメントされていく姿が見て取れたことは、何より嬉しいことでした。

講座終了後、参加者同士でサポートグループを継続していくこと、生活の中でピアカンを活かしていくことを約束しました。このように、日々の生活の中で支え合う仲間が増えていくことは、JILC（全国自立生活センター協議会）、CILで行うピアカウンセリングの良いところでもあります。

今後は長期講座（アサーティブトレーニングやロングセッションを含めたカリキュラム）を企画していきたいと思います。

文：大川速巳

グループホームななーらの外出。
静岡市葵区にある梅の花で有名な
洞慶院に出かけました。



このお寺には 400 本もの梅樹があり、その中でも中国原産の蠟梅(ろうばい)が見頃ということで、ななーらの皆で花見に出かけました。

あいにくの曇り空で、とても寒い日でしたが、久しぶりの外出ということもあり、皆さん朝早くから準備を整え、出発を今か今かと待ちきれない様子でした。

静岡市街地から車で 30 分程山間に向かったところに洞慶院があり、到着してからまずはお参りを済ませました。1月9日には静岡護国神社に初詣に行きましたが、まだまだ沢山のお願い事をしたいようで、「今年は、あちこちの神社に行つて、いっぱいお願い事をしたいな。」と、言っている入居者さんもいました。

参拝後、甘い薰りに引き寄せられて、蠟梅のゾーンに行ってみると、黄白色の花が沢山咲いており、まさに見頃を迎えていました。ななーらの皆は、「あ、咲いている」「きれいだね」と、じっくりと花を見ては喜んでいました。洞慶院の梅の花は3月上旬まで順次花が咲き、地元の方々を楽しませるそうです。

今回の外出は、入居者のKさんの誕生日会を兼ねており、普段は外食をするところですが、またしてもコロナが感染拡大してきた為、洞慶院の庭でお弁当を食べて過ごす事にしました。Kさんのリクエストで、天丼とナポリタン、そして、支援員手作りのイチゴのムースを寒空の中、皆さん嬉しそうに完食していました。



食事中は気にならなかった寒さも、食べ終わった途端に「寒くなってきた」と、凍えだした為、急いで帰路につきました。

文:清水かおり



↑蠟梅の花の前で記念写真。

寒空の下、天丼とナポリタンの炭水化物セットを堪能中です。↓





新春！ 生活介護さにいの 餅つき大会！



力を合わせて、ぺったんこ↑

ついたお餅を、
支援員さんと一緒に丸めます。↓



お正月と言えば、何を思い浮かべるでしょうか？

おせち料理を食べたり、初詣に行ったり。中にはお年玉が楽しみという方も、いらっしゃるのでは無いでしょうか？(笑)

生活介護さにいでも、お正月気分を味わおう！と書初めやたこ揚げ、お雑煮作りなど行って来ましたが、餅つきには手が出ませんでした。大きな理由としては、臼と杵の調達が出来ないことがでしたが、今回はなんとっ！ご縁が有り、臼と杵をお借り出来ました。臼と杵が揃ったなら、餅つきをやらない手はない。と言う事で、早速利用者さん全員で餅つき大会を企画しました！

餅つきをやったことのない利用者さんも多く、みんな興味津々。支援員の手を借りて実際に炊き立てのもち米をぺったん！ぺったん！と勢い良く突いてみました。思った以上に重い杵に悪戦苦闘しながらも皆で力を合わせて、無事にお餅は完成！きな粉やあんこ、他にも思い思いの味付けで出来立てのお餅を食べました。やはり、自分たちで突いたお餅の味は格別。すっごく美味しく、皆も笑顔でいっぱい。とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。

コロナ禍の中、衛生面は特にデリケートな部分となります。ソーシャルディスタンスや消毒、マスクの着用など、今では当たり前なことを徹底すれば色んなこと

をもっともっと楽しめる。そう認識した瞬間でもあり、これからも色々なことに挑戦したいと考えています。次の予定は節分、そしてひな祭りとまだまだ楽しんでいこうと思います！

文：吉岡佑真



ぼくらの 逸品

時々、愛車を事業団玄関横づけで颯爽とやって来る、伏見さん。
委員会メンバーの誰かが、「あの人の趣味凄いんだよ。銀細工、沢山！！」って
話から、「じゃ、次の逸品は是非！伏見さんに。」と、さらっと人選。
そんな軽いお願ひにも、取材を快諾してくださった伏見さん。ありがとうございます。
思いっきり語っちゃってください！！

静岡市清水区在住

伏見 隆次さん（43歳） 脊髄損傷



2007年に交通事故により、
脊椎を損傷。以後、車イス
ユーザーになる。
受傷後は、はーとぴあ清水
などでボランティアをしな
がら、作家活動をしている。

＜シルバーアクセサリーの基本知識＞ アクセサリー作りは大きく分けて3種類。 ①銀粘土を用いるもの
②ワックス（ろうのようなもの）を用いるもの ③金属を直接加工するものがあります。伏見さんは、3種類とも製作されてきたとの事ですが、今回は、②のワックスによる指輪の製作風景を取材させていただきました。

シルバーアクセサリー作りを始めた きっかけは？

元々、アクセサリーとしてシルバーは好きでした。作品を作り始めたのは、20年くらい前から。最初は、銀粘土で製作していました。その時にお世話になっていた先生の紹介で、ワックスでの製作も始めて、今はそちらがメインです。それぞれ、インストラクターの資格も習得しました。アートワックスを教えてくれた先生は本当に親切で、浜松から私の自宅（清水区）まで、毎週通って教えてくれ、感謝しています。

銀細工の魅力は？

まずは、自分のイメージしたものが形になる面白さ。作品は完全にオリジナルでデザインするものもあれば、商品になっているものから、自分なりにデザインをアレンジして楽しんでいます。製作するときには、詳細までは決めず、アウトラインを作り、徐々に詳細に作り込んで、細工を入れていきます。動物や骸骨などは、解剖図を確認し、骨格の比率を正確に作るようにしています。

アートワックスは鋳造後、酸化膜が付いているため、そこから研磨して仕上げます。表面を仕上

げていく過程で作品が表情を変えていくのが面白く、魅力です。

写真①の作品も、同じ型で鋳造した作品です。酸化膜がかかったもの、それを研磨したもので、中央の少し黒くなっているものは、研磨したものをさらに硫黄で燻したもの。同じ作品でも全く違う印象です。

また、時間を忘れて取り組めるのも魅力。

作品の正解はないので、ワックスを少しづつ加工していくので、細かい作業ですが集中できます。

8時間くらい続けて作業したこともあります。



写真①



製作には、定規、リングゲージ棒、ヤスリなど用具もさまざま。全て伏見さんの私物です。主には、ワックスペンを使用します。電源でペン先が発熱し、ロウを削ったり、付け足したりと加工していきます。

ヘッドもサイズを変えて3種類。

写真②ではわかりにくいですが、中央の普通サイズの物で、太さは1mmよりも細いです。それだけ細かい作業なので、ヘッドルーペを着用して製作します。



写真②



ワックスでアウトラインを作り→模様を彫りこみ→型へ鋳造し、作品へ

★動画もあります！コチラ→



【作業工程】

リングゲージに作成する指輪の号数に合わせて、ワックスペンの先に、ワックス（ロウ）を少しづつ溶かして取り、ゲージに合わせて重ねていきます。

溶かして→重ねて を繰り返し、厚みを付けたリングを作ります。そこから、石を取り付けるための爪を付けたり、模様を彫ったりとさらに加工。ここで作るワックスの製品は、銀を鋳造するための型になります。

製作したワックスから専門業者によって「型」を作り、鋳造し、実際の銀細工となります。

文：宋裕子

ワカイチカラ 2

ひまわり事業団の介助派遣サービスひだまりで活躍している学生ヘルパー。

アルバイトに選んでくれて、ありがとう。今回は少し照れ屋な3人。

ヘルパーやってどうだったが、少しお話を聞かせての、第二弾。

今まで、障害のある方と接することがあった？

杉山：あります。発達障害（ADHD）を持つ、弟がいます。

宇都宮：あります。重度心身障害のある方。

山下：ある。放課後等デイサービスに通う子供達。

ひまわり事業団を知ったきっかけは？

ヘルパーってどんな印象だった？

杉山：劉さんと鈴木さんが大学にお話しをしに来てくださったのがきっかけです。

障害者と接することができるアルバイトがあると初めて知り、驚きました。

宇都宮：学校の講義でゲストスピーカーとして、事業団の職員がお話をしてくださいましたことでした。

山下：ひまわり事業団の職員さんが、県短に外部講師として招かれたことをきっかけに知りました。事業所の場所自体の見当はついていましたが、実際に何を行っているかなどの内容については、その時に初めて知りました。

健常者と障害者とのバリアを無くすために社会の変化が求められている中、一早くバリアフリー化を実現させている事業所さんを見るのは初めてだったので、とても新鮮でした。

杉山：時給が高いから。障害者の方と関わってみたいと思ったからです。

何でヘルパーをアルバイトに選んだの？

宇都宮：元々、障害のある方と関わる仕事につきたいと考えていたので、それにも繋がる経験が出来ると思ったからです。

山下：自分の経験を積んでおきたかったからです。当時は、現場に出るための知識をつけるために選びましたが、現在は、現場を支えるための裏方の仕事に就きたいと考えています。それでも、どの仕事でも、この仕事は生かされると考え、この仕事を選びました。余談ですが、自分はいろんな人を話すことで笑顔にすることが好きで、この仕事を選んだもう一つの理由です。

他のアルバイトと比べて良い点・大変な点ってどんなところ？

杉山：時給が高い。好きな時間帯で入れる。休みを調整してもらえる。職場の雰囲気が良くて働きやすいところ。夜遅い時間まで働けるけど、その分起きていくちゃいけないので大変ですね。

あと、覚えることが多いところだと早く仕事を覚えるやいけないことが大変です。

宇都宮：良い点は、やりがいがあることや、時給が高いところです。大変なのは、自分が人見知りなこともあります、コミュニケーションが難しいと感じることがあります。



すぎやま ゆな
杉山 友菜さん

静岡県裾野市出身
ヘルパー歴 6か月
●静岡県立大学(短期大学部)
社会福祉学科 社会福祉専攻 1年



うつのみや ゆうか
宇都宮 唯花さん

愛媛県今治市出身
ヘルパー歴 5か月
●静岡県立大学(短期大学部)
社会福祉学科 介護福祉専攻 1年



やました たくみ
山下 拓実さん

静岡県島田市出身
ヘルパー歴 0か月(研修中)
●静岡県立大学(短期大学部)
社会福祉学科 介護福祉専攻 1年

山下：自分はまだ本格的なアルバイト経験がない為、詳しく話すことはできません。しかし、ボランティアと比べて、良い点、大変な点はある為、その話で代用させてください（笑）

まず良い点は、より人と関わることができ、相手の心理や行動などを直接的、長期的に学ぶことができる。次に大変な点は、どの業種よりもダントツで責任感のある行動が求められること。この2つが挙げられると考えます。

ヘルパーの仕事をしてみて、どんな感じ？

障害者感の変化ってある？

杉山：障害者の方と接することがあまりないのでこのバイトに感謝しています。障害者の方への近寄りがたさがなくなって、もっといろいろな方とお話ししてみたいと思うようになりました。

宇都宮：より障害の方と関わる仕事につきたいという思いが強くなりました。

山下：まだ、ヘルパー歴が浅く勉強の日々ですが、それでも一つ言うことがあるとするならば、この仕事に関わることができて良かったと思いました。時には大変なこともあります、それ以上に笑顔で話しかけてもらえる時が一番嬉しかったです。

ヘルパーを始めてから研修生として先輩ヘルパー同行させていただいているが、その時、よく思う

ことがあります、まあ、当たり前のことではありますが、障害者もすごい笑顔を見てくれるんだと思います。

利用者との面白いエピソードがあれば教えて？

杉山：利用者の方が私の取りたい資格を持っていて、いつも勉強のアドバイスをもらったりしています。お互いに知っている教授のことを話したりと話が弾んでとても楽しいです。

宇都宮：私の出身地（愛媛県）に行ったことがあるという、お話をきかせて頂きました。

山下：利用者の趣味の話を聞いた時が、一番強く印象として残っていますね（笑）

「この人知っている」とか「この人、私（利用者）が好きなんだよね」等、自分の好きなことを相手に一生懸命伝えようとする姿を見ながら、話しかけるのがとても楽しかったですね。

この経験を機に、

更に福祉業界に携わってみたい？

杉山：より、障がいについて興味をもつようになりました。

杉山：携わってみたい。

山下：障害福祉限定ではなく、福祉全体に関わる仕事にいざれ携わりたいと考えている。



とおるのトーク

今年は最強寒波が何度来るんだろう？北国の除雪作業など見ると、静岡は温暖だなと思う。室内なら、陽当たりだけでそれほど寒さを感じなくて済む。さすがに着替えや摘便（ベッド上で便をかき出す）を暖房なしでやる勇気はないが。

摘便するようになって気になり始めたのが腸活。その一環として冬には腹巻をしている。腹巻はお腹を冷えから守ってくれるんだよ。しかし、なにせニットは伸びたりほつれたりでダメになるのも早い、今年は三枚買いました。気に入っていたスヌーピー柄のは買ってひと月でサヨナラでした。洗濯機で洗っていたのだから痛むのも当然だな。だけど心あるヘルパーはいるもので、これからは手洗いをしてくれるとのこと、腹巻も長く使えそうです。でも、ある日突然プラスチックが洗濯籠にシラッと入れられるなど洗う時に判るはずもなく、たまたま腹巻と洗われちゃったんだよね。悲惨な姿でサヨナラしたスヌーピーが教えてくれたような気がする、ニットは手洗いすべしだと…。ごめんねスヌーピー。

独り暮らしあり長いと、いろんなヘルパーに出会う、特に全介助になり中田に来てからは、「ちっちゃなことは気にしない」と達観しながらも、見ていると、一人一人のヘルパーのいい面と嫌な面がくっきりわかる。具体例として…。人の話を聞いてくれるヘルパーがいるかと思えばルーティンだけこなして帰るヘルパーもいてね。丁寧で時間をかける人、良く言えば合理的な人など人柄が出るよね。ただ、365日休むことなく皆さん定時には確実に来てくれるようになっているため、独りベッドで寝て待つ身には安心なことに変わりはない。もとい、このまま書き進めるとどこかで地雷を踏んで、ぼくの生活に差しさわりが出そうだ。なので、ヘルパー話はこの辺で切り上げる。

生活を支えるという面では、週三回のペースで訪問入浴も来てくれている。こちらも大変よくやってくれている。洗髪しながらも湿疹個所を気にかけて、軟膏塗布などしてくれて助かっている。以前は浴槽に男性に抱えられて運ぶ状況がやや恐怖症のぼくには怖くて憂鬱ではあったが、担架の導入で解消された。明るい雰囲気の中での楽しい入浴タイムである。

訪問看護も勿論外せない。摘便してもらわないと糞詰まりで苦しくなる。うな政のウナギや、すき家のほろほろチキンカレーをたらふく食べれるのも、年末年始も休まず健康観察を含めて処置に来てくれる訪問看護のおかげである。

文：橋本徹

障害を持つ人の生活を支援する
ヘルパー
募集中

お気軽に
お電話ください
054-287-1230

【編集後記】

令和に入っていきなり襲ってきた新型コロナウィルスによる世界的パンデミック。この新型コロナウィルスにより世の中は一変、生活様式から人と人とのコミュニケーションの在り方まで様変わりし、集会や会議、研修なども現地へ出かけて行かずともオンラインで開催するようになり、世界中とリアルタイムで繋がることが当たり前になった。重度障害者にとってもより社会と繋がる機会、選択肢が増えて社会と平等に、対等にコミュニケーションが図れる世の中になるのではないか。コロナ禍を経験して生まれたニューノーマルがインクルーシブ社会の一助になるのではないか。

文：大川速巳